

熱く 羽ばたけ 大潟っ子

白鳥



校長通信
大潟村立大潟中学校
令和4年6月30日(木) 発行
NO.3 文責:安田 和人



全県大会出場に向けて

去る6月18日、19日に市郡の夏季総体が各会場で開催されました。3年生にとっては中学校部活動の集大成の大会で、各競技において熱戦が繰り広げられました。全力を尽くし、完全燃焼できた人もいれば、残念ながら力を出し切れずに試合終了を迎えた人もいます。これからはそれぞれが新たな目標を設定し、一日一日を大切に過ごしてほしいと思います。

今大会を通じて感じたことは、応援の力がいかに試合に影響を与えるかということです。大会前日に行われた激励会での応援団と吹奏楽部の演奏は、全ての選手に勇気と力を与えてくれました。また大会当日、各校の吹奏楽部の演奏が3年ぶりに野球大会の球場に響き渡ったときの感動は、選手や応援してくれる家族はもとより、大会関係者の間でも感慨深いものがありました。(吹部の皆さん、コンクール前の大事な時に2日間本当にありがとうございました)

全県大会では、どの競技においても地区大会以上に一つ一つのマナーやプレーが厳しくなります。試合でだけいいプレーをしようとしても、決してできるものではありません。普段の学校生活が全ての基本です。全競技にイえることですが、勝って部活動を終わることができるチームは全県でそれぞれ1校だけです。それ以外のチームは全て負けて、中学校の部活動を終わることになります。負けたらどうしようとか考える必要はありません。正々堂々と最後まであきらめず全力を尽くすことが何よりも大切です。また、試合中は敵であってもお互いがお互いを敬う気持ちが必要です。高校に入学してからチームメイトになるかもしれません。フェアプレーあってこそそのスポーツです。全県大会での皆さんの健闘を期待しています。



避難訓練「自分の命は自分で守る」

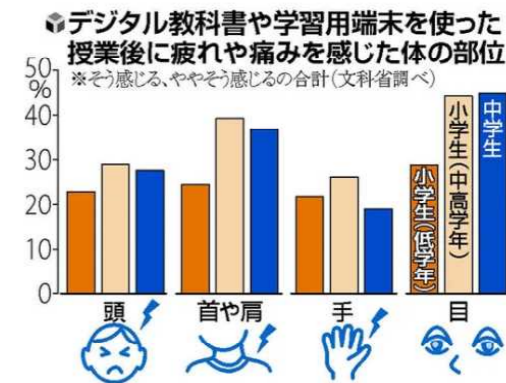
6月23日(木)には、大潟村総合防災訓練の一環として第1回避難訓練が行われました。災害が発生した時の基本的な行動を理解し、命を守るために、機敏に、冷静に、安全に避難することを目的に毎年実施しています。今回は、災害「地震・火災」発生時初期の命を守るための行動、避難場所や避難経路、避難の仕方を学びました。最近、国内外において大きな地震が発生しています。災害は、いつどこで起きるか分かりません。常に災害への備えを忘れずにいましょう。

また、皆さんが見ていない所で、先生方は適切な避難誘導や初期消火活動等について確認をしていました。



学年上がるほど近視増 小中生、スマホ影響か(文科省抽出調査)

上記のタイトルは、6月24日付け読売新聞の記事のものです。文科省は、学年が上がるほど、近視とみられる児童生徒の割合が多くなる傾向が示され、症状が重くなるケースも増えるという結果を発表しました。また、デジタル機器を連続して使用していると、右図のような状態になる恐れがあります。学年が上がればスマートフォンやゲーム機の使用時間が長くなり、目の負担も増えることが背景にあるとみられます。視力と関係がある眼球の奥行き



の長さ「眼軸長(長いほど近視が進む)」は近くを見る作業を長時間続けると、伸びたまま戻らなくなります。視力低下に関する調査では、「スマホなどの小さな画面を見ることが影響」しており、特に女子の低下が顕著な理由については、「身長が伸びる時期は眼軸長も伸びていく傾向にあり、体の発達の早い女子で視力低下が顕著だったのではないか」という結果が出されていました。

6月の「ほけんだより」には、デジタル画面使用時の姿勢と目の休め方が示されています。再度読み直し、正しい姿勢で、目を定期的に休めながら適切なデジタル画面の使用に心掛けるようにしましょう。(保健室前にも掲示しています)

『其れ恕か』

□ 恕(じょ)

今から2500年ほど昔、中国の思想家に孔子という人がいました。釈迦、キリストと並んで世界三大聖人の一人に数えられる人です。孔子の教えは論語という書物にまとめられています(3年生は国語の授業で学習済みですね)。そのなかで、弟子が孔子に「人生で最も大切なことを一言で言えば何でしょうか」と質問しました。すると孔子は「其(そ)れ恕(じょ)か。己(おのれ)の欲(ほつ)せざる所、人に施(ほどこ)すこと勿(なか)れ」、つまり「それは思いやりです。自分がされたくないことは人にはしてはならない」と答えました。人を受け容れ、認め、許し、その気持ちを思いやり、自分のことと同じように人のことを考えることこそ、人生で一番大切なことだと孔子は教えたのです。



しかし、言うは易(やす)く、行(な)うは難(かた)しです。なぜならば、誰でも他人より自分が可愛いからです。人は自分には甘く、他人には厳しくなりがちです。何気ない言葉が、実は人を傷つけることはよくあります。人を嫌な気持ちにさせるのも、人間関係を悪くするのも、ほとんどが相手への思いやりのない軽はずみな言動です。



「恕」の精神は、仲間づくりや学級づくり、つまり、よりよい人間関係を築く上で大切なものの一つです。自分の言動に、相手への思いやりの心を乗せて伝えることは、難しいことですが、それができれば素晴らしいことです。そのような大中学生が一人でも多く増えることを願っています。